

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所 はんざわ体操クラブ		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 1日		～ 令和 7年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和 7年 11月 1日		～ 令和 7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	連絡ノートを活用し保護者との連携を図ったり、送迎時に保護者の方との交流、情報交換を行っています。	その日にあった出来事や様子などを毎回伝えるようにしています。また新しく挑戦できたものなども伝えるようにしています。	一人ひとりの実態と成長に合わせた活動の内容を職員全体で考え行っています。また楽しみながら通所できる環境を整えています。
2	体操教室の時間を設け、跳び箱や鉄棒、トランポリンなど様々な種目に取り組みめるような内容になっています。	児童自身ができるようになりたい技を聞いたり、取り組みやすい技から始め、できたことへの達成感を感じていけるようにしています。	取り組む内容が偏らないよう様々な種目を行ったり、競技用の器具に触れる機会なども作ることで興味につなげたり、定期的に参加することで次のステップへ進めるよう活動内容を考えています。
3	放課後等デイサービスの児童と体育館で一緒に遊ぶ場を持つことでルールのある遊びを知ることができたり、幅広い年齢層の児童とかかわりを持つことができている。	少し難しい遊びにも参加する機会を作っていくことで、わからないことを質問する場面が経験できるようにしています。	積極的に異年齢の児童との交流の場を作っています。また年長の児童に関しては、小学生との関わりを持つことで放課後等デイサービスへの移行がスムーズになるよう進めています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関との直接的な連携の機会が限られていて、内容を共有した支援の取り組みが十分に行えていない部分があります。	保護者を通して保育園や幼稚園、他事業所の情報を共有し、子どもの状況を把握しています。必要に応じて電話等で確認を行い、支援内容に反映しています。	サービス担当者会議や関係機関との会議へ積極的に参加できる体制を整え、直接的な情報共有を増やしていきます。
2	体育館には競技用の器具を設置している為、ワイヤーがあったり、段差等がある為常に注意してみいく必要があります。	器具の設置がある為、段差等ができてしまいます。危険な箇所については職員間で話し合い、怪我につながらないように見直しを行っています。	危険な箇所については必要に応じてマットを敷いたり、カバーをつけることで対応しています。
3	地域とのかかわりや交流の場が持ちにくい。また事業所外での活動が少なくなっています。	事業所の中での異年齢の児童とのかかわりは持っていますが、地域の人とのかかわりの場への参加は難しいのが現状です。	事業所内での活動だけでなく、地域の方との交流やイベントなどに参加する機会を検討していきます。また参加できていたこともある為、どのような方法で行くのかどのような支援が必要かを考え、継続して参加できるように考えていきます。